

「南西諸島への自衛隊進出」

全国勝手連連合会会長 光永 勇

2

015年7月8日、宮

古島市議会は「陸上自

衛隊の早期配備を求め

る要請書」を賛成多数で採択し

ました。市民に反対の声がある中、

一定の結論が出たものと言えま

す。訪れた多くのマスコミの合同

取材に応じる直前の忙しい中で

したが、私は市長と二人つきり

で会い、腹を割った意見交換をし

ました。本音を聞くことができました。

たし、提言することもできました。

さて、議会議決後の地元の声

は様々で、皆さんすでに周知のこ

とですが、沖縄県防衛協会の国

場幸一会長は「国防力を強化す

べき南西諸島の宮古島で、防衛

意識が高まってきている」「市民

の声を受けた宮古島市議会の判

断を歓迎したい。領土を防衛す

るという国防の観点を重視した

英断だ」と陸自の早期配備に期

待感を表し、また、要請を提出し

た自衛隊配備促進協議会の会長

で宮古地区自衛隊協力会会長の

野津武彦氏は「可決されて感謝

している」「協力会としても防衛

省関係者を招いて説明会を開き、

不安を払拭していきたい」と話し

ています。

一方では「止めよう」自衛隊配

備「宮古郡民の会」の下地朝夫

共同代表は「これまでデメリッ

トがほとんど議論されないまま

今日の採択を迎えた。怒りで一

杯だ」と言い「自衛隊配備につい

て「住民説明会」を求める市民の

会」の岸本邦弘代表は「議論を

積み重ねて答えを探すのではな

く、あらかじめ決まっていた答え

に向けて走った印象だと言っ

ています。

佐道明宏中京大教授は「離島

防衛には「義的に航空優勢、海

上優勢が不可欠だが、南西地域



宮古島は、中国側から地図を見ると太平洋への出口の、ビンの蓋に見えると光永会長へ説明する下地敏彦市長

は現時点で航空自衛隊や在日米軍によつて航空優勢が確保されており、他国に侵略される可能性は低い」という見方を示し、むしろ「経済的効果をどう今後の地域活性化につなげるかが課題だ」という意見もあります。

宮古島の場合自衛隊員700〜800人とその家族を合わせれば2000名近く住民が増えることで、その経済効果や災害や防災、救急などの効果を期待する向きも多いように窺えました。住民に自衛隊OBも多く、特に予定地の上野野原などは自衛隊への親和性が高い土地柄でもあります。かつて、台風が来たときにビッグウェーブを求めて浜に出た青年がいました。当然遭難したのですが、その時海上保安庁などより自衛隊が機敏に対応し、ヘリコプターで青年を救助しました。そういう経験にも裏打ちされている感情です。

基地は、平良西原の大福牧場周辺と上野野原のゴルフ場千代田カントリークラブの約30haが予定されており、石垣・与那国の自衛隊配備と連動する地下

司令部の建設も計画されています。今後、地元への説明会などを通じ、住民にとつて納得のできる基地建設がなされるよう注目する必要があります。感じました。

既に与那国島では、基地建設が始まっています。沿岸監視部隊として200名弱、家族も含めて500名の住民が増えることは、人口1600名の島にとつて、大きな魅力です。

しかし、私が実際に多くの人に会い率直な意見を聞くと、少しニュアンスの違いがあるように感じます。私が感じるのとは、これらのことを踏まえた上で、なおかつ地元の人々の思いは、経済や、自らの利害を越えた思い遣りの心とでも言うべきものではないのかということ。思えば戦後、焼け野原と化した福岡・大阪・東京の復興のためにセメントや石・木材などの建築資材は、台湾から与那国島を経由して本土に送られました。戦前は合法の物流も、戦後は密輸となり非合法です。どんな想いで島民は敢えてそれをしたか、想像を超えた緊張感



与那国町教育委員会・崎原用能教育長と、与那国町の教育行政・未来の姿について熱く語り合う

の中で行われたのです。そのことを日本本土の人々ほどのくらい知っているでしょうか。そしてそのことに感謝の気持ちはありませんか。自衛隊の配備は、国防の最先端をえて引き受けようとする先島諸島の住民にとって、命を懸けた必死の選択に違いありません。自衛隊誘致だけが島の将来を展望できる選択肢だというこの差別的現実を、日本政府



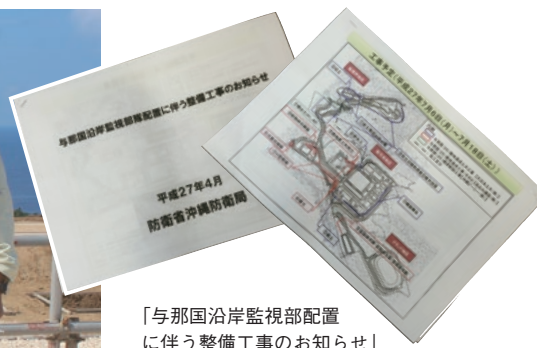
与那国・外間守吉町長、与那国島の歴史や行政・防衛などについて、2日間にわたり対談

と国民はしっかりと見る必要があります。与那国町の教育長は、配備される自衛隊員の子どもたちが、大人たちの対立の影響でイジメにあわないかと心配していました。漁協の組合員は、漁に出られない現状を憂い誰も守ってくれないと嘆いていました。島の住民にとって医療は死活の問題です。そのためにも自衛隊は期待さ

れています。これらは、単純に賛成反対では割り切れない難問をはらんでおり、島の人々を悩ませています。
2 006年6月、全国勝手連連合会35周年大会が両国国技館で開かれた時のテーマは「共謀罪反対」と「平成の大会を問う」というものでした。実は与那国町は、この大会で、石垣市への合併を受



勝手連与那国支部長・後間正輝氏、沖縄県アースディ自然環境保護CO2削減事業協同組合与那国支部長・与那覇仁孝氏



「与那国沿岸監視部配置に伴う整備工事のお知らせ」平成27年4月 防衛省沖縄防衛局

け入れれないと言うアピールを予定していましたが、残念ながら実現しませんでした。住民サービスの低下を懸念したためです。しかしその結果与那国町は交付金を40%カットされました。地方格差を是正するための交付金が恣意的に運用されたのです。ただでさえ東京から一番遠い島で、物価は運賃を加算されるなど全国一高くなっています。島にはスー

パーなどの個人商店は無く、共同店舗があるのみです。経営が成り立たないのです。本来であれば、住民のためのインフラ整備は当然のこと、それは何かの引き換え条件ではないはず。今こそ離島の不便さやインフラ未整備現状に、地方創生や、交付金など当たり前の財政措置で手厚く報いるべきではないでしょうか。これまでは、与那国島住民の日本全体を思う気持ちと裏腹な政策がまかり通ってきました。そういうことが、住民感情に影響を落とし、問題を複雑化させています。今回の訪問を通じて、そういう心の壁とでも言うべきところに触れられたのは、大きな成果でした。今後の沖縄の方向を考える上で、大事な視点が得られたものと確信します。

与那国島で長年この自衛隊配備問題に関わってきた後間正輝元町議会議員は、私が今回、宮古島・石垣島・与那国島を相次いで訪問し、首長を始め住民とひざを交えて懇談したことを高く評価してくれています。「現地に実際に来て頂いて、多くの人々と意見交換をして頂いたことは、実情を知り未来へ繋がる方策を探る上で、大きな意味を持つに違いありません。良いタイミングでした」と話してくれました。今後の連携を固く誓い合い、また近く訪れることを約束し、台風のさなかの訪問を終えました。